



懇話会だより



今までに懇話会は7回(2/14、3/19、4/24、5/27、6/20、7/25、9/28)、先進校視察は2回(5/23、7/4)、講演会や保護者説明会は3回(5/12、6/5、7/8)開催しており、8か月間にわたって話し合われた内容は議事録や懇話会だよりに掲載しています。それら実績報告の資料をもとに、座長が中心になってこれまでに出示された意見を確認しました。確認にあたって、各所属団体の代表は以下のように意見を述べています。

【保護者代表】

- ・魅力的な学校で転入者が増え、教員数も増えることを願います。
- ・保護者アンケートの結果を書き加えていただきたいです。話し合いで出示された意見が小中一貫校設置に向けて生かされなければなりません。
- ・この地域が小中一貫教育で手厚い教育をしようとしていることに敬意を表したいです。
- ・不安は多かったが、その中で議論を積み重ねて「前を向いて進もう」という結論に達したことを付け足してくれませんか。



【自治会代表】

- ・学校運営協議会等で、地域が学校に関わることも考えてくれませんか。
- ・道徳教育の推進にも力を入れてほしいです。



【学校長】

- ・早く小中一貫を取り入れ、地域の皆さんと共に市で初めての素晴らしい施設での小中一貫校を作りたいです。
- ・新しいことを始めるのは不安ですが、他で既にやっていることであり、成果もあがっています。だからこの地域にとってプラスだと思います。新しい教育が始まるなら挑戦したいと言う教職員もいます。



【教職員代表】

- ・子どもの数を何とかして増やし、そのことで学級数を増やしたいです。子どもの数を増やすことは地域の活性化を抜きにしては語れず、小中一貫校はその起爆剤となる可能性があります。
- ・小中学校の組織的指導体制を構築していかなければなりません。また、地域の期待も非常に大きいですが、それに応えるには教員を増やしてほしいです。

意見交換を終え、最終的に出示された意見は裏面のようであったと確認しました。

生駒市ホームページには議事録等を掲載しております。小中一貫教育懇話会のページは次のとおりです。 <http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/15200/03/01.html>

なお、懇話会は小中一貫校実施について一定の方向性を出しましたので、第8回をもって役目を終えました。小柳教授には引き続き生駒市の小中一貫教育の推進についてご指導いただく予定です。



第1回から第3回では、大きく3つの意見がありました。1つ目は、小中一貫教育に関する情報不足で、不安があるので、講演会・説明会をもっと欲しい。2つ目は、この度の小中一貫教育についての提案は、手続き的に問題があり、撤回の上、あらためて北中学校区の教育を考えていく取組をして欲しい。3つ目は、学校と地域で北中学校区の教育を考えていきたい。小中一貫教育はそれを開いていく可能性を持つので積極的に考えていきたい、とするものでした。

その後、この懇話会の1つ目の意見にまず沿って、話し合うにしても情報不足では問題があるということで、講演会、説明会、似た規模・立地などをもつ小中一貫校の視察に出かけるということになり、小中一貫教育の理解、生駒市の方針についての理解などの時間が取られました。

続いて、懇話会の第4回から第6回では、小中一貫教育についての理解が広がりを持ち、また、生駒市の方針についても確認がなされ、より前向きに小中一貫教育を考えようとする話し合いが持たれました。

そして保護者、地域の声を拾う活動として、アンケートや対面による話し合いの時間、先進的な取組をしている地域の声を聞きに出かけるなどの情報収集がなされ、その結果についても懇話会で話されました。

さらに、生駒北中学校区で小中一貫教育を行うとしたら、何を指すのかについても懇話会内で明確にする話し合いも持たれ、そのイメージも作成されていくに至りました。

なお8回の話し合いを通して、出された意見は概ね次の通りでした。

- 1) 北小、北中に望むこととして、学力のさらなる向上、小中教員による組織的な指導体制の構築、部活動の充実等の課題改善をお願いしたい。また小中一貫校のメリットを生かして、周辺の地域から児童生徒が転入してくるようにして欲しいという意見が出されました。
- 2) 小中一貫教育で、充実した設備、特色ある教育課程を備えた魅力ある学校をつくり、地域や保護者、学校が一体となって地域の活性化を図りたいという意見が多く出されました。
- 3) 1学年1学級の状況の中、小中一貫教育を取り入れ小中教員の協働による学習指導や生徒指導等を生かし学校の教育力の維持向上を図りたい。その上で、実施については教員の不安や負担を考慮して欲しい、特に立ち上げ期においては、適切な人員の配置やバックアップ体制を市として配慮して欲しいという意見が出されました。
- 4) 実施に当たっては、中学校から入ってくる生徒の不利にならないよう十分配慮すべきである、という意見がありました。
- 5) 少数ではあるが、小中一貫教育をしなくても、これまでの取組で十分可能でありむしろ教員の人数を増やすべきという意見も引き続きありました。
- 6) 保護者へのアンケートなどにおいて、とりわけ最初の頃、少数ではありますが反対意見があり、そして不安を表明する声などが多く見られました。しかし、講演会や説明会、対面によって直接声を聞く活動を通じて、次第に、まだ不安な部分も残るが、前を向いてみんなで作っていかうとする動きになってきました。より具体的な内容が見えることへ向かって欲しいという報告もなされました。

以上のような意見から見られるように、最終的に大きな意見の流れとしては、小中一貫教育を進めることで、生駒北小学校、北中学校の教育をみんなで考えていこうとする方向性が意見の大半を占め、むしろ、より具体的にどのように進めていくかに時間をかけたいという意見が多く出されるに至りました。

なお、懇話会の座長からは「話し合いで出された意見が小中一貫校設置に向けて活かされることを強く望む。」とのご意見をいただいています。